資料番号 4

水害リスク情報の充実・強化について

河 川 課

1 要旨

令和3年3月に策定した「ひろしま川づくり実施計画2021」では、これまで進めてきたソフト対策に加え、住民の主体的な避難を促すための、よりきめ細かな水害リスク情報の提供に取り組むなど、デジタル技術も最大限に活用して、対策の充実・強化を図ることとしている。

昨年度出水期以降の,進捗状況及び今後の取組について報告する。

2 取組の概要

(1) 平時のリスク情報の周知

① 想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域の指定・公表

洪水氾濫による人的被害の軽減を図ることなどを目的として改正された水防法 (H27.7) に基づき、想定し得る最大規模の降雨 (想定最大規模降雨) により河川*が氾濫した場合に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定・公表を進め、この度、令和2年度末に対象63河川全てで完了した。

今後,指定した洪水浸水想定区域をもとに,市町において,水位到達情報等の伝達方法や避難場所・避難経路に関する事項を地域防災計画において定めるとともに,住民に周知するための洪水ハザードマップの作成・公表を進める。

※洪水により相当な損害を生じるおそれがあるものとして指定した洪水予報河川及び水位周知河川

項目	H28	H29	Н30	R元	R2
指定済み 河川数	1	11	22	29	63
指定率	1.5%	17.4%	34.9%	46.0%	100%

表 1 指定済み河川数の推移

② 「洪水ポータルひろしま」への機能追加【別紙1参照】

洪水浸水想定区域等を掲載している県の WEB サイト「洪水ポータルひろしま」に、次に示す機能を追加し、利便性の向上を図った。

▶ 住所検索機能

地図画面において、住所検索により知りたい場所が表示できる。

▶ 浸水深ランクの表示機能

地図画面において,浸水深ランクが知りたい箇所をクリックすると,凡例画面に選択地点に関連する浸水深ランクが表示できる。

▶ 浸水区域データのダウンロード機能

地図画面において、浸水深ごとに結合したエリア図が GIS データ (座標情報を付与) としてダウンロードできる。

(2) 洪水時のリアルタイム情報の発信

① 危機管理型水位計及び河川監視カメラの設置

洪水時に、よりきめ細かな河川状況をリアルタイムに提供し、住民の円滑かつ迅速な避難に繋げるため、洪水時に特化した低コストな水位計(危機管理型水位計)や河川監視カメラの設置に取り組んでいる。

令和3年度出水期までに,危機管理型水位計を100箇所,河川監視カメラを76箇所設置し,情報提供を開始する。

項目		令和2年度 出水期まで	令和3年度 出水期まで	令和4年度 出水期まで			
危機管理型 水位計	設置数	50 箇所	100 箇所	_			
	設置率	50.0%	100%	100%			
河川 監視カメラ	設置数	13 箇所	76 箇所	122 箇所			
	設置率	10.6%	62. 2%	100%			

表 2 水位計・カメラの設置状況

3 今後の取組

引き続き、「逃げ遅れゼロ」実現のため、住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より きめ細かな情報提供に努めるとともに、水害リスクの認知や防災知識等の普及に関する取組を進めて いく。

(1) まるごとまちごとハザードマップの推進

浸水想定区域等の認知度を向上させるため、全ての市町を対象に、想定される浸水深等の情報を"まちなか"に掲示する「まるごとまちごとハザードマップ」に取り組む。

(2) 中小河川の洪水浸水想定区域図の公表(水害リスク情報空白地帯の解消)

水防法に洪水浸水想定区域の指定が規定されていない中小河川についても,想定最大規模降雨を対象とした洪水浸水想定区域図を作成し,全県管理河川(499河川)における水害リスク情報を整備する(令和3年度6月中の公表を予定)。

(3) 水害リスクラインの提供(洪水予測の高度化)

洪水がいつ・どこで発生し得るか(洪水危険度)を表示(見える化)する「水害リスクライン」 の導入に向けて、代表河川における水位予測モデルの構築を進める。

別紙1

【参考】「洪水ポータルひろしま」追加機能の画面イメージ

住所検索機能

地図画面において、住所検索により知りたい場所が表示できる。



浸水深ランクの表示機能

地図画面において、浸水深ランクが知りたい箇所をクリックすると、凡例画面に選択地点に関連する浸水深ランクが表示できる。



浸水区域データのダウンロード機能

地図画面において、浸水深ごとに結合したエリア図が GIS データ (座標情報を付与) としてダウンロードできる。

